

関係各位

愛知県農業総合試験場長
(公印省略)

病害虫発生予察情報について(送付)
このことについて、下記のとおり発表しましたので、参考にしてください。
記

令和2年度病害虫発生予報第5号(8月)
令和2年度病害虫発生予察注意報第6号

担当 環境基盤研究部病害虫防除室
電話 0561-62-0085
内線 471
ファックス 0561-63-7820

令和2年度病害虫発生予報第5号(8月)

令和2年7月31日
愛知県

普通作物

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への 影響
イネ	いもち病 (穂いもち)	やや多い	県全域	7月下旬の葉いもちの発生量は やや多い	+
	紋枯病	多い	県全域	7月下旬の発生量が多い 8月の降水量はほぼ平年並	±
	白葉枯病	多い	尾張地域	7月下旬の発生量が多い	+
	もみ枯細菌病	平年並	県全域	7月下旬の発生量は平年並 8月の降水量はほぼ平年並	±
	ニカメイガ	平年並	県全域	7月下旬の発生量は平年並 予察灯における誘殺数は平年並	±
	セジロウンカ	やや多い	県全域	7月下旬の発生量は平年並 予察灯における誘殺数は平年並 飛来予測回数が多い	±
	トビイロウンカ	やや多い	県全域	7月上旬の発生量が多い 7月下旬の発生量は平年並 予察灯における誘殺数は平年並 飛来予測回数が多い	±
	ツマグロヨコバイ	やや少ない	県全域	7月下旬の発生量は少ない 予察灯における誘殺数は平年並	-

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
イネ	斑点米 カメムシ類 (イネカメムシ クモヘリカメムシ ミナミアオカメムシ)	やや多い	県全域	7月下旬の発生量はやや多い 予察灯における誘殺数は平年並	±
	斑点米 カメムシ類 (上記以外)	平年並	県全域	7月下旬の発生量は平年並 予察灯における誘殺数は平年並	±
	イチモンジセセリ (イネツトムシ)	平年並	県全域	7月下旬の被害株率は平年並	±
	フタオビコヤガ (イネアオムシ)	平年並	県全域	7月下旬の発生量は平年並 予察灯における誘殺数は平年並	±
	コブノメイガ	やや多い	県全域	7月下旬の被害株率はやや多い	+
ダイズ	ハスモンヨトウ	やや多い	県全域	フェロモントラップにおける誘 殺数は平年並 8月の気温は高い	± +
	オオタバコガ	平年並	県全域	フェロモントラップにおける誘 殺数はやや少ない 8月の気温は高い	- +

・防除対策

〔イネ・いもち病〕

発生状況や感染好適条件出現日については、本日発表の「いもち病（葉いもち）情報第3号」を参考にしてください。また、防除対策については、7月16日発表の「令和2年病害虫発生予察注意報第4号」を参考にしてください。

〔イネ・紋枯病〕

本日発表の「イネ紋枯病情報第1号」を参考にしてください。

〔イネ・白葉枯病〕

本日発表の「イネ白葉枯病情報第1号」を参考にしてください。

〔イネ・セジロウンカ、トビイロウンカ〕

7月下旬のセジロウンカの発生量はおおむね平年並、トビイロウンカは7月下旬の本田調査及び予察灯で確認されませんでした。しかし、飛来予測回数が例年に比べて多いことから、引き続きほ場での発生状況に注意してください。特にトビイロウンカはほ場内で集中的に分布し、また株元に生息しており注意が必要です。

〔イネ・斑点米カメムシ類〕

斑点米カメムシ類全体の発生量はほぼ平年並ですが、イネカメムシ、クモヘリカメムシ、ミナミアオカメムシは平年より多く発生しています。調査結果の詳細については、本日発表の「斑点米カメムシ類情報第1号」を参考にしてください。また、防除対策については、7月16日発表の「令和2年度病害虫発生予察注意報第5号」を参考にしてください。

〔イネ・コブノメイガ〕

7月16日発表の「コブノメイガ情報第1号」を参考にしてください。

〔ダイズ・ハスモンヨトウ〕

本日発表の「ハスモンヨトウ情報第1号」を参考にしてください。

・留意事項

一部地域のイネでイナゴ類（ハネナガイナゴなど）の発生が多いほ場を確認しています。止め葉展開以後に株当たり約1頭いると収量、品質に影響するとされており、食害が激しいほ場では薬剤で防除しましょう。

ダイズのオオタバコガのフェロモントラップへの誘殺数はやや少ない状況です。詳しくは「オオタバコガ情報第1号」を参照してください。

果樹

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
ウンシュウミカン	黒点病	平年並	県全域	5月の枯枝の孢子形成量は平年並 8月の降水量はほぼ平年並	± ±
	ミカンハダニ	やや少ない	県全域	7月下旬の発生量は少ない 8月の気温は高い	- +
	チャノキイロアザミウマ	やや多い	県全域	7月下旬のイヌマキにおける発生量はやや多い 粘着トラップにおける誘殺数は平年並	+ ±
ナシ	うどんこ病	やや少ない	県全域	7月下旬の発生量はやや少ない	-
	ハダニ類	やや多い	県全域	7月下旬の発生量は平年並 8月の気温は高い	± +
	ナシヒメシンクイ	平年並	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数は平年並	±
モモ	モモハモグリガ	平年並	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数は平年並 7月下旬の被害葉率は平年並	± ±
カキ	うどんこ病	平年並	県全域	7月下旬の発生量は平年並	±
	カキノヘタムシガ	平年並	県全域	第1世代幼虫による被害果率は平年並	±
	コナカイガラムシ類	平年並	県全域	7月下旬の発生量は平年並	±
果樹共通	カメムシ類	平年並	県全域	7月下旬のヒノキ林における生息頭数は平年並	±
				7月下旬のヒノキ球果量は平年並	±

・防除対策

〔ウンシュウミカン・チャノキイロアザミウマ〕

本虫の防除適期は、成虫発生ピークの時期です。下表の成虫発生ピークの予測日や6月18日発表の「令和2年度病害虫発生予察注意報第2号」を参考に防除しましょう。

表 アメダス観測地点における有効積算温度を利用した成虫発生ピークの予測日

	愛西	南知多	名古屋	大府	豊田	岡崎	蒲郡	豊橋	新城	伊良湖	稲武※
第4世代	7/28	7/27	7/22	7/23	7/27	7/28	7/27	7/27	7/31	7/26	8/1
第5世代	8/14	8/14	8/9	8/9	8/14	8/15	8/14	8/13	8/18	8/13	8/23
(前年)	8/15	8/16	8/11	8/12	8/18	8/17	8/17	8/16	8/21	8/15	8/23
前年差	1日早	2日早	2日早	3日早	4日早	2日早	3日早	3日早	3日早	2日早	±0
第6世代	8/31	9/1	8/26	8/26	9/1	9/2	8/31	8/31	9/6	8/31	9/17

各地のアメダス平均気温から予測（第4世代から第6世代まで）。

7月30日までは実測値を、それ以降は平年値（豊橋、大府は前年値）を用いて計算。

※稲武については、第3世代から第5世代までの予測。前年ピーク日と前年差は第4世代。

〔ナシ・ハダニ類〕

ダニコングフロアブルやコロマイト水和剤などで防除しましょう。

・留意事項

ブドウベと病がやや多い状況です。早期落葉の防止や次作の越冬源量を減らすため、収穫終了後も防除を実施しましょう。

果樹カメムシ類のヒノキ林での生息状況や離脱時期の詳細は、本日発表の「果樹カメムシ類情報第2号」を参考にしてください。

野菜

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
キャベツ	オオタバコガ	やや多い	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数は 昨年並 8月の気温は高い	± +
	シロイチモジ ヨトウ	多い	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数は やや多い 8月の気温は高い	+ +
イチゴ	炭疽病	多い	県全域	7月下旬の発生量は多い 8月の気温は高い 8月の降水量はほぼ昨年並	+ + ±
野菜共通	ハスモンヨトウ	やや多い	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数は 昨年並 8月の気温は高い	± +

・防除対策

〔キャベツ・オオタバコガ〕

本日発表の「オオタバコガ情報第1号」を参考にしてください。

〔キャベツ・シロイチモジヨトウ〕

定植後、幼虫を確認したら直ちにコテツフロアブルなどで防除しましょう。

〔イチゴ・炭疽病〕

本日発表の「令和2年度病害虫発生予察注意報第6号」を参考にしてください。

〔野菜共通・ハスモンヨトウ〕

中齢以降の幼虫は、薬剤による防除効果が低い傾向にあるので、分散前の若齢幼虫期に防除しましょう。キャベツでは、セルトレイ育苗時はプレバソフフロアブル5などのかん注処理、定植後はマッチ乳剤やディアナSCなどで防除しましょう。

・留意事項

キャベツのコナガは、フェロモントラップにおける誘殺数はやや多い状況なので、今秋作の育苗においては特に注意が必要です。ほ場をよく観察し、早期発見、早期防除に努めましょう。また、ハイマダラノメイガは、今後、発生に好適な気象条件が見込まれるため、注意が必要です。育苗期には防虫ネットなどで覆い、成虫の侵入を防ぐとともに、薬剤防除を徹底しましょう。

トマトでは、コナジラミ類の発生が増加する時期です。タバココナジラミはトマト黄化葉巻病（病原ウイルス：TYLCV）、コナジラミ類はトマト黄化病（病原ウイルス：ToCV）を媒介します。これらウイルス病の感染を防ぐため、育苗時、定植時にはコナジラミ類が寄生していないか確かめるとともに、コナジラミ類に効果のある粒剤を施用しましょう。また、侵入防止対策として、施設開口部に防虫ネット（目合 0.4mm以下）を設置しましょう。

イチゴの育苗ほどハダニ類の発生量が多い地域があります。育苗ほどは、気門封鎖型農薬などを組み合わせて防除しましょう。本ほにハダニ類を持ち込まないために、必ず定植直前に防除を徹底しましょう。炭酸ガス処理（二酸化炭素くん蒸剤）をした場合、処理後の苗をハダニ類の発生した育苗ほに戻すと再度ハダニ類が寄生してしまうので、速やかに定植しましょう。

花き

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
キク (露地)	オオタバコガ	やや多い	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数は平年並 8月の気温は高い	± +
	ハダニ類	やや多い	県全域	7月下旬の発生量はやや多い	+

・防除対策

[キク (露地) ・オオタバコガ]

本日発表の「オオタバコガ情報第1号」を参考にしてください。

[キク (露地) ・ハダニ類]

ペンタック水和剤やダブルフェースフロアブルなどで防除しましょう。なお、薬剤感受性の低下を防ぐために、同一系統の農薬を連用せず、ローテーション防除を行いましょう。

予察灯、フェロモントラップなどの各種調査データは、ホームページ「あいち病害虫情報」(アドレス：<https://www.pref.aichi.jp/site/byogaichu/investigation.html>)を参照してください。

東海地方 1か月予報 (名古屋地方気象台 7月30日発表)

〈予想される向こう1か月の天候〉

平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率50%です。

週別の気温は、1週目は、平年並の確率50%です。2週目は、高い確率50%です。

3～4週目は、高い確率50%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

[気温] 低い：20% 平年並：30% 高い：50%

[降水量] 少ない：40% 平年並：30% 多い：30%

[日照時間] 少ない：30% 平年並：30% 多い：40%